

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

2023. 7. 8

学 力 研 発 行

常任委員長 岸 本 ひ と み

郵便振替 00920-9-319769

到達度を明確にした授業改善

私たち現場の教師は、教育学者でもなければ、指導主事でもありません。どんなに研究会で高邁な議論を戦わしていても、現場に帰れば、平の教師であり、一授業者です。それを糧とし、それを誇りとして生きているのです。だから、私にとっての理想の授業とは、特別な授業を意味するものではありません。今の授業を一步でも前に推し進める授業であれば、それが理想の授業なのです。

クラスの学習能力や学習規律の到達度を正確に把握し、その半歩前の課題を徹底して鍛え、現下の課題に取り組み、現在の学習規律の到達点を確固たるものにする授業、あるいは、次のステップへの足がかりをつくる授業であれば、それが一授業者の私にとっては理想の授業なのです。

久保齋「一斉授業で子どもが変わる!」(2009.3 小学館)

1学期がまもなく終わろうとしています。学級や子どもたちの様子はでしょうか。学力研の実践をたくさん紹介していますので、2学期からの取り組みにぜひ役立ててください。(李)

CONTENTS

◇特集「1学期の総まとめ ～どの子ども伸ばす学力研の実践～」◇

テストを意識した学習への一步	加藤英介・・・2
「1学期の総まとめ～どの子ども伸ばす学力研の実践～」	鈴木基久・・・4
一学期の総まとめ ～どの子ども伸ばす学力研の実践～	小川慶子・・・6
「こだわり」を「教室文化」に高めるために	吉田雅直・・・8
「自分にもできる」実感の積み重ねでみんながキラキラ輝く	福島 尚・・・10

◇連載◇

「どの子ども伸ばす」を本気で考える連載57「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ	岡本美穂・・・12
温故知新の授業づくり⑩ 学習参観授業の組み立て方	荒井賢一・・・15
「先生のための学校」誌上 開校	久保齋・・・17
サークル活動紹介「授業・自治公開ゼミナール」	丸小野聡暢・・・19
局長・常任委員長だより	・・・20
学力研カレンダー	・・・21

※深澤先生の連載は、都合により休載させていただきます。

テストを意識した学習への一歩

加藤 英介

三ヶ月の振り返り

現在、6年担任をしている。4月の様子は、とても授業ができるという状態ではなかった。教室から出てしまう子、フロードを被って寝ている子、暴言を吐いてしまう子など、まさに修羅場だった。ただ、過ごす中で気付いたことは、授業はある程度聞いてくれたり、参加してくれたりとやる気は多少あることだった。つまり「できないからやりたくない。傷つきたくない。だから出ていく。」ということなのだと感じた。

そこで、ことあるごとに「失敗しても大丈夫。失敗して学んでいこう」というメッセージを伝えることにした。また、学校に来る目的や何のために授業を受けるのか、一年間でどんな自分になりたいのかなど、今まで何となく過ごしてきたことに対し、改めて考える機会を設けた。話の最初や最後には、今日の主役を何人か決めてよかったことやよかった瞬間を

取り上げるようにした。周りの友達にその行動についてどう思うかを尋ねたり、あなたならどうするかを聞いたりして、一人のよさをみんなのよさにつなげていった。実際に、掃除で頑張っている子が、いた日のことを紹介する。

「みなさんは、掃除って必要だと思いますか。どうしてそう思うの。なるほどね。今日、〇〇さんがどうやって掃除していたか知っている人はいますか。〇〇さんは黙って一生懸命、時間いっぱいまで掃除をしていました。これは、今日に限ったことではありません。毎日毎日しています。みんなもわかるよね。どう思いますか。『汚いからきれいにする』って言葉は誰でも言うことができます。でも、実際に動ける人はそんなにいません。だけど、〇〇さんは言葉ではなく行動で示してくれています。すてきなことですね。実は、その行動を見て、〇〇さんも最近同じように黙って動き始めました。〇〇

さんも〇〇さんもよくなりました。先生が見ていないだけで他にもがんばっている人もいます。今日は、誰が輝いてくれるのか楽しみにしています。そして、いつも掃除をしてくれてありがとうございます。」

このように、たった5分程度の時間を一週間のうちに何度かつくる。なるべく全員の頑張る瞬間を切り取りながら、何気ない毎日を心に残る毎日にしていく。教師が俯瞰して全体を見ることによって、一人ひとりの可能性を引き出し、悪い点で目立つのではなく良い点で目立ちたいと思えるよう仕掛けていく。とはいっても、結果はすぐには出てこない。教師がやればやるほど遠ざかってしまうときもある。だから、焦りは禁物である。失敗して当たり前。うまくいかなくて当たり前。もし、うまくいったらラッキー。そんな心構えで接している。

あるとき、男の子が授業後に「先生、どうしたら満点取れる？がんばっても取れないからどうしたらとれるかなあって…どうせ無理だけどさ」と聞いてきた。

この瞬間に満点が取れる授業構成に変えようと決め、実践をすることにした。

テストを意識した学習

「満点を取りたい」という思いはどの子も必ずもっている。そのために教師は、教科書を使いながら丁寧に授業を進めたり、復習プリントやドリルを用意したりして、日々奮闘していることだろう。自分もその一人だ。授業では「楽しい！分かった！」という声が聞こえる一方で、テストとなると途端にできなくなる。この原因は「分かったつもりになっている」「テストの解き方に慣れていない」ことがテストの結果から見えてきた。

次の日から、授業の始めと終わりにミニテストを設定した。内容は、計算ドリルの内容やテストの中から3問程度出題する。3問のうち2問は前回と同じ問題にしておく。これにより、解くスピードも上がり自信をもって取り組むことができる。毎時間同様のパターンで続けていく。同じ問題と違う問題を混ぜることによって、安心して挑戦することができる。

テスト返却のとき子どもから「点数上がった！」「やったあ。満点だ！」という声が聞こえてきた。そんな中、五十点だった子が「もう一回できますか？」と聞いてきた。

理由を聞くと「満点を取りたいから」と教えてくれた。その言葉を聞いていた何人かの子たちも「やりたい」といつていた。そこで、休み時間に「テスト勉強・再テストし、満点のテストに大満足していた。その喜びは、担任だけでなく学年の先生や教頭先生にまで伝えていたくらいである。

この子は去年まで、教室の中に入らなかつたり、授業妨害をしたりと周りとは折り合いをつけることが難しかった。それが、たった一回のテストで変わる。たった一枚のテストで成長するのである。「やらされる」から「やりたい」へと気持ちを变えていくためには、教師の後押しが必要である。また「できた」という経験をいかに積みせるかも大切である。最初は、自分の力でなくても、誰かの力を借りてきたらよい。その経験を積み重ねることにより「ぼくなんて、できない」から「ぼくだったら、できるかも」に変化し「ぼくなら、できる」と

いう自信が生まれていく。そして、いつのまにか自分で満点を取ることができるのである。

あと一ヶ月

一学期も残すところあと少し。テストは結果が全てである。しかしながら、結果が出なければだめかと言えばそうではない。前回よりもどのくらい上がったのか、どこが伸びたのかという成長過程も大切なことである。満点ではなくても、そこまでの努力は認めるべきであり、教師にしか見つけられない成長過程を伝えることも、その子の自信につながる一つとして有効である。

これは、他の授業や授業以外の場面でも同じことが言える。あいさつや学習準備、係や当番の仕事、友達への接し方など、何気なく過ぎてしまう日常の中に、輝く瞬間はいくつもある。小さな出来事を見つけて、伝えて、つなげて、広げていく。すると、最初は嫌がっていたことが、好きかもう感情に変わり、違和感しかなかったことが達成感へと変わっていくのである。あと三週間、駆け抜けていきましょう。

「1学期の総まとめ」の子も伸ばす学力研の実践」

鈴木基久（静岡県）

私は昨年と同じ2年生の担任をしている。昨年度と違うのは、1年生で4学級だった集団が、教員不足のため3学級となり、学級の子供の数が35人になったことだ。

1学期に取り組んだ実践や夏休みまでにやろうと思っている実践を紹介したい。

ひらがな・かたかな五十音表

1年生で学習したひらがな・かたかなの五十音表だが、すべて正しくすらすら書けているかを確かめることは重要である。特に、かたかなはひらがなに比べると読んだり書いたりする機会が少ないので、書けない字がいくつもある子がクラスに必ずいる。ひらがな2分以内、かたかな2分半以内を合格の基準にしている。

昨年度は4月に実施したが、今年度は6月に集中的に行った。現在の合格者はひらがな・かたかなともに25人で、あと10人がまだ合格できていない。1学期中に全員合格を目指すして継続して取り組んでいく。ちなみに、昨年度は最後の一人が合格できたのは、2月だったので、あせらず2学期、3学期にも確認することが大切だと思っている。

ひらがな特殊音節

1年生の1学期に学習する長音、促音、拗音、拗長音などの特殊音節の表記が正しく身に付かないままの2年生や3年生の子供たちがいる。私の勤務校では、多層指導モデルMIMのアセスメントを1〜3年生で実施し、すらすら読めずに困ってい

る子の支援に役立てている。アセスメントは2種類あり、それぞれ1分間で実施する。これを2・3年生は年間5回実施する。7月上旬に今年度2回目のアセスメントを実施する。動作化や言葉集め、長音の例外の替え歌などを復習して、正しく表記できるように指導している。（詳しく知りたい方は、「多層指導モデルMIM」で検索してほしい。）

自作の「絵を見て答えるかたかなテスト」では、サンタクロース、ミッキーマウス、ケチャップなどの言葉が出題されている。このテストにはすべてのかたかなが含まれていて、長音、拗音、拗長音などの復習もできる。1枚でかたかなが効率よく学習できるので、2年生以上のどの学年でもおすすめのテストである。

読み上げ漢字

4月当初に家庭学習で使える保管用学習プリントとして、リズム漢字、おさらい読み上げ漢字、2年1学期

読み上げ新出漢字を配付した。読み上げ新出漢字の音読を家庭学習としてきたので、正しく読めているかのテストを5月と6月に実施した。読み上げ漢字は1枚に75個の言葉が載っていて、語彙を増やすことを目的にしたプリントである。子供は記憶力に優れているので、ほとんどの子は70点以上で合格できる。合格できない子は、音読や漢字が苦手な子が多い。しかし、書けないことより読めないことの方が学習で困るため、苦手な子には、漢字は複数の読み方があることや送り仮名について個別に指導していく必要がある。

リズム漢字

普段の漢字学習は新出漢字が中心なので、学期末には1学期に学習した漢字が全て書けるかのテストをする。一方で前学年までの漢字の復習も学期末には行っておきたい。

4月と5月にリズム漢字の音読はしてあるので、リズム漢字の書きシ

ートで1年生の漢字80字が書けるかをテストする。これまでの経験から1年生の漢字を5つ以上間違えている子は漢字を苦手にしていると考えられる。書けなかった字を練習すれば、次のテストでは合格できる子が多い。学年が上がるにつれて、前学年までの漢字の復習をすると半分くらいしか書けない子や半分にも満たない子が増えてくる。覚えていない漢字がどれかを明らかにして、それを1つ1つ覚えていくしかない。2学期、3学期に向けて少しずつステップアップできるように励まして取り組んでいくことが大切である。

大きな数 数唱え

「100より大きい数」を6月下旬から学習している。1年生では120まで学習したが、数の表し方の仕組みを理解できていない子が数名いる。授業では、ゲームのように数唱えをしている。2とび、5とび、10とび、100とびで数が唱えられ

る子は、数の表し方の仕組みが身に付いていると言える。

家庭教育講演会

今年度、勤務校では7月の個別面談が希望者のみとなったので、夏休み前に読み書きで困っている子供をサポートする方法を保護者に伝える教育講演会を計画した。講演会には昨年度70人の参加があり、今年度も50人以上の参加が見込まれている。保護者のサポートがあれば、子供にとってこれほど心強いことはない。必要な情報を発信することで、学校に対する信頼も高まると考える。

個別面談

これまでの取り組みから分かる課題と家庭でのサポートの方法を保護者に伝える。特に夏休みは長いので、苦手な課題に取り組む絶好のチャンスでもある。親子のやる気を後押しできるように具体的で役に立ったと思われるアドバイスをしたい。

一学期の総まとめ

くどの子も伸ばす学力研の実践く

春日井学力研 小川慶子

3年生は第二のスタート

3年生は、新しく始まることがたくさんあります。社会科・理科・外国語活動、リコーダー、絵の具・毛筆書写など、子どもたちの期待も高まります。このエネルギーを正しい方向に向け、どの子もいい流れに乗せていくことが担任の務めと考えました。新しいことに揃ってスタートできることは挽回のチャンスです。新しい気持ちで新学期を迎えた子どもたちと「3年生は第二のスタート」を合言葉に始まった一学期です。

学年末の姿を描いて

学年末の理想の姿は次の通りです。

○国語のどの单元でも「完璧読み」ができる。

○新出漢字200字と1・2年の漢字24

0字を習得し、自由自在に使える。

○国語辞典を使って言葉の意味を調べて語彙量を増やし、文章の内容を正しく理解できる。

○ローマ字表記を習得し、ローマ字入力ができる。

○わり算を正しく理解し、基本わり算（九九一回適用で商一位数）のC型わり算（余りのあるわり算でくり下がり）で余りを出すもの100題が全員5分以内にできる。

○作品展・六年生を送る会などの行事で「輝きの場」をつくり、たくさんの人にがんばる姿を見せることができる。

書くことが苦手な子どもたち

四月当初、連絡帳を視写するのに時間がかかるだけでなく、平仮名ばかりで1・2年で習ったはずの漢字も書けないのが実態でした。方眼ノートのマス目を黒板に書き、

ノート指導をしても、マスに字が収まらない、同じように書けない、ページを飛ばして書くなど、鉛筆を持って書く経験が少なすぎるのではと思う子どもいました。

まずは漢字の学習から

3年生の配当漢字は200字、そのうち一学期に配当されている漢字は88字。毎日宿題プリントの中に組み込み、コンスタントに取り組むようにしています。残りの112字は、二学期末までに完了し、冬休み明けに「漢字200字テスト」をし、復習をしていこうと計画しています。

まず、ゴールデンウィークまでは1日1字、その後6月下旬までは2字最後はまた1字というようにしました。漢字学習の枠は、読み方・成り立ち・熟語・短文を記入できる形式にし、最初はB5の大きさで宿題プリントに組み込んで書いていました。

ゴールデンウィークまでは、国語の時間を使い、筆順・読み方・成り立ち・熟語・熟語の意味調べと記入・短文づくりまで丁寧にしました。ゴールデンウィーク明けからは、1日2字にし、B6の大きさの枠の中

に熟語とその意味、短文を書くようにしました。それと同時に「漢字の先生」も始めました。

漢字の先生

漢字一字につき一人を割り当て、漢字の学習の司会をします。

- ①黒板に大きく漢字を書きます。(ほかの子は空書きをします。)
- ②部首・読み方を発表します。
- ③熟語を使った短文を発表し、熟語の意味を発表します。
- ④「他にありますか」と言って、違う熟語で短文を書いた子を当て、発表してもらいます。

満点をとって自信をもつ

漢字テストで満点をとらせるために、宿題プリントにミニテストを組み込み、毎日練習し、目の前で採点をして間違ったところを家庭で練習するように伝えています。

一〇問のテストですが、五問ずつ2回練習し、一〇問の満点テストとそうそテストと本テストと合計5回取り組むことでかなりの子どもが満点をとることができ、「やればできる」を実感しています。何よりも満点が取れずに落胆するのではなく、「あと、この字を覚えればいいよね」と前向きな発言をする子が増えたことがよかったです。

生活の中に生きる学習

毎日の取り組みの結果、文字の大きさを調節して書いたり、速く書いたりできるよくなってきました。また、国語だけでなく、他教科の授業で難しい言葉が出てくると、さっと意味を調べて発表する子が出現しています。国語辞典は学校のものを使っていますが、今後は個人持ちの国語辞典を使い、同じ言葉でも辞典によっていろいろな言い回しがあることに気付いたり、いろいろな聞くことによって意味が分かることを体感させたいと思っています。

スタートが揃っているから

漢字のほかにも、ローマ字を前倒しにして読みを中心に進めたり、リコーダーの練習・絵の具の塗り方の練習をしたりすることが楽しいと言って、取り組む姿は微笑ま

しいです。スタートが揃っているからこそみんなを取り組んでいる一体感があります。「次はいつする?」「明日もしようよ」という声を上手につなげていけたらと思います。

残り半月で

「調べる」「探す」活動が楽しくできるようになり、国語辞典の使い方にも慣れ、調べている途中で別の言葉の意味に出会う楽しみを味わっている姿もあるので、7月に入ったら、「辞書引き大会」をしようと思っています。また、社会科で地図帳を見る機会があり、興味をもっている子もあるので、後ろのページに載っている索引を使って「地名探しゲーム」もやってみたいです。

一学期に身に付けたことを生かし、知らないことを知る喜びや学ぶ楽しさを味わってほしいと思います。

「学校に来るのが楽しい、勉強が楽しい、友達と遊ぶのが楽しい」と言えるクラスを目指し今後子どもたちの実態に寄り添って実践をしていきたいです。

「こだわり」を「教室文化」に高めるために

大阪 吉田雅直

今年 は 異 動 の 年 で、同 じ 市 内 の 小 規 模 校 から 大 規 模 校 に 転 勤 に な り、四 十 名 の 五 年 生 を 担 任 す る こ と に な り ま し た。昨 年 度 も 五 年 生 だ っ た の で、学 習 内 容 の イ メ ー ジ や 教 材 研 究 の ベ ー ス は で き て い た の で す が、や は り、新 し い 環 境 と 初 め て の 子 ど も た ち と い う ハ ー ド ル は 高 く、悪 戦 苦 闘 の 毎 日 で し た。学 力 づ く り に お い て も、学 級 づ く り に お い て も、ま だ ま だ 課 題 は 山 積 み で す が 一 定 の 成 果 も 出 て き て い ま す。一 学 期 の 実 践 を 振 り 返 り な が ら、こ こ ま で の 成 果 と 課 題 を 明 ら か に し、二 学 期 に 向 け て の 取 り 組 み の 方 向 性 を 見 定 め た い と 思 い ま す。

「こだわり」を「教室文化」に

四 月 から、私 が 学 力 づ く り と 学 級 づ く り に お い て こ だ わ っ て い る こ と を ど ん ど ん 実 践 し て い き ま し た。学 力 づ く り で は 「音 読 指 導」と「ノ ー ト 指 導」の 徹 底、発 表 や 司

会 の 方 法 の 指 導、漢 字 の 「つ ぶ や き 書 き」の 導 入 「予 習 課 題」へ の 取 り 組 み と 「ふ り か え り」の 指 導。毎 日 の 「百 マ ス 計 算」の 取 り 組 み。学 級 づ く り で は 「係」と「会 社」の 活 動 や 「ク ラ ス 会 議」の 導 入、毎 日 の 感 想 カ ー ド と 学 級 通 信 な ど、子 ど も た ち の 反 応 を み な が ら 取 り 組 み を 進 め て き ま し た。ま だ ま だ こ れ か ら、と い う も の も あ り ま す が、う ま く 軌 道 に 乗 り、「教 室 文 化」と し て 定 着 し は じ め て い る も の も あ り ま す。教 師 の 「こ だ わ り」を 「教 室 文 化」と し て 定 着 さ せ る た め に 大 切 な ポ イ ン ト は、

- ① 教師がその教育的効果に確信を持ち、これだけは絶対に譲れないという「こだわり」を持つて、それを子どもたちに伝えること
- ② 続けるためのシステムを構築すること
- ③ 「快適な情動」を大切にすること
- ④ 学級の実態に応じて柔軟に対応すること

だ と 感 じ て い ま す。

① は 特 に 高 学 年 の 場 合、そ の 教 育 的 効 果 を 子 ど も た ち に ど れ だ け 熱 く、わ か り や す く、説 得 力 を 持 っ て 語 れ る か と い う こ と で す。

例 え ば 「音 読」で も、高 学 年 に な る と 「普 通 に 読 め れ ば い い」「わ ざ わ ざ 声 に 出 し て 何 回 も 読 む 意 味 が わ か ら な い」と い う 疑 問 を 持 っ 子 も 出 て き ま す。そ こ で、音 読 は 「音 声 言 語 と 文 字 言 語 の 橋 渡 し」と い う 大 変 高 度 な 「技」で あ る こ と、そ れ ゆ え、脳 を 大 い に 活 性 化 さ せ る 「脳 の 全 身 運 動」で あ る こ と、優 れ た 音 読 に は 「聞 き 手 意 識」と「筆 者 意 識」が 大 切 だ る こ と な ど を 説 明 し、高 学 年 と し て の 音 読 の 意 欲 を 高 め ま す。そ の う え で、「連 れ 読 み」「一 斉 読 み」「交 代 読 み」な ど、み ん な で 響 き 合 う 心 地 よ さ を 感 じ さ せ な が ら、「音 読」を 教 室 文 化 に 高 め て い く の で す。と 偉 そ う な こ と を 書 い て い ま す が、実 は 最 近、音 読 指 導 に 十 分 な 時 間 を 取 れ て お ら ず、子 ど も た ち の 音 読 へ の 意 欲 と 音 読 の 質 が 低 下 し て き て い る の を 感 じ て い る こ と へ の 反 省 を 込 め て 書 い て い ま す。あ る 程 度 「う ま く な っ て き た な」と 思 っ て

も、そこで手を抜いてしまうと、また元に戻ってしまうのが一学期の落とし穴です。しかし、ここであきらめると一年間しんどくなってしまいうので、もう一度初心に立ち返り「こだわり」にこだわって、音読指導をやり直したいと思っています。

②「続けるためのシステム」とは、毎日の学習活動の流れの中に「こだわり」を組み込むことです。私はどの学年でも百マス計算に取り組むのですが、これまでは算数の授業のはじめの五分を使っていました。しかし、今年度は三クラスを四分制と同じ指導計画で進めるため、授業内で行うのは難しいと判断し、朝学の時間で行うことにしました。朝一で行うので「やり忘れ」ということがなく、一日のスタートが高度な集中から始まることで、学力づくりだけでなく、学級づくりにも大いに役立っています。みんな「昨日の自分に勝つ」と意欲を燃やしているので、たまに集会などでなくなると「え〜」やりたかったのに」という声上がるほど、百マスが教室文化としてしっかりと定着しています。

③「快適な情動」とは、学習活動において子どもたちが感じる「心地よさ」です。音読指導でも、しかたなく読まされているのと、みんなの声が響き合う心地よさを感じながら読んでいるのでは教育的効果が百倍くらい違います。百マス計算では、自分のベストタイムを乗り越えた瞬間に感じる大きな達成感が「快適な情動」だと言えます。はじめはどんどん記録を更新して快適な情動を高めていきますが、ある時点で必ず「壁」にぶつかり、何度挑戦しても乗り越えられず、やる気を失ってしまいます。しかし、ここでの教師の声掛けが大切なのです。タイムには反映されなくても毎日取り組み続けることで「見えないパワー」が溜まっていて、いつか必ず大きな飛躍（ブレイクスルー）が訪れるから、それを信じてがんばれ、と。そして、それが訪れた時さらに大きな「快適な情動」とともに、「やればできる」すなわち「努力は成果となって返ってくる」という百マス計算を通して私が一番伝えたい「隠れたメッセージ」が子どもたちに伝わり、百マスが「ただの計算練習」から「教室文化」に高まるのです。

④は、①と矛盾しそうですが、「こだわり」つつ、目の前の子どもたちの様子を見ながら柔軟に対応することが大切です。今年度は「クラス会議」を五月から本格的に導入しようと考え、第一回目は、「お互いの顔が見えるように」「特別感を出すために」ということで、これまでこだわってきた「椅子だけで輪を作る」という形で行いました。子どもたちは喜んでくれたのですが、セッションが上がりすぎて落ち着いて話し合いをする雰囲気になりませんでした。そこで第二回目からは、普段の授業の状態のまま行ったところ、落ち着いて話し合いができるようになりました。クラス会議の目的は自治的な学級を目指した話し合いができるようになることであり、「輪になること」はその目的を達成するための方法のひとつにすぎないと判断し、その「こだわり」を捨てたことがよかったのだと思います。形や方法にこだわることも大切ですが、それは何のためにあるのかという本質を見抜き、究極的な目的に「こだわる」ことで、目の前の子どもたちの実態に応じた柔軟な取り組みができるようにしたいと思っています。

『自分にもできる』実感の積み重ねでみんながキラキラ輝く

福島 尚（神奈川県）

新しい学年となり、どの子どもたちも気持ち新たにスタートしたと思います。『こうなりたい！』という思いの子もいれば、『上手くいくかな』という思いの子もいると思います。そのようないろいろな思いを持った子どもたちにとくさんの自信をつけ、『自分にもできる！』実感をさせることを一学期は目指して取り組んできました。

暗算十でできる＝自信

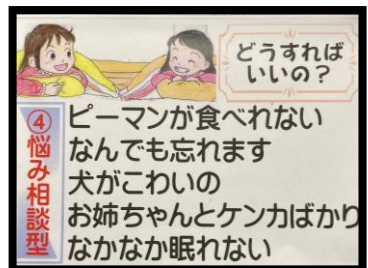
今年度は三年生を担任していますが、どの学年を持つても必ず算数の最初の5分間は暗算（計算問題）に取り組ませています。内容は一年生の1桁＋1桁から始まり、現在の学年の内容まで段々とステップアップしていきます。問題数は5問程度ですが、子どもたちの実態に合わせて問題数も変えていきます。そこで大事なことは、特に計

算が苦手な子どもたちが苦しくならないように、そしてその取り組みで全員の自信がついていくことを目指していくことです。

また、その日々の取り組みの成果をさらに実感させるために、毎週一回朝学習の時間に『タイムアタック』として100マス計算を行っています。子どもたちは日々の暗算（計算）の腕試しとして捉えているので、意欲的に取り組んでいます。成果の実感←自信←意欲←・・・というように、プラスのスパイラルが起きていきます。

スピーチで高まる仲間意識

よくある日直のスピーチ。おそらく、出来事や発見したこと、自分が思ったことや考えたことなどを話すことが多いと思います。自分のクラスでも行っていますが、最初の内は下のようなお題カードを用意して



この中から選んでスピーチをさせています。お題カードがあることで、人前で話すことが苦手だったり、何を話すか考えることが難しかったりする子どもたちにとっては、安心感につながっています。

お題カードは4種類あり、子どもたちは、初めは『もしも○○』だったらシリーズを選ぶことが多いのですが、子ども同士の関係ができてくると、右の投げかけ型を選ぶようになってきます。自分の悩みや相談をスピーチすると、友達が真剣に考えて答えてくれる、自分のことをみんなが考えてくれる嬉しい気持ちと安心感につながり、クラスが一つになっていく温かい雰囲気へと変化していきます。時々、みんなが笑ってしまう珍回答？もあつたりしますが、で

もその子もいろいろと考えての答えなのだと認め合う空気にもなっています。この取り組みが、普段の授業の中でお互いの考えを認め合うことにもつながったり、発言をしても否定されたりしないという安心感、そして「相手のことを大事にする仲間意識」が高まっています。

学習のまとめは振り返り

これまで授業の終わりにノートに書いてきた振り返りを進化させ、学習のまとめを行います。普段の授業では学んだことや友達への考え、気づきなどを振り返りに書かせています。残り一か月間は、これまでの学習を振り返り、自分のこれまでの取り組みやできるようにしたこと、友達との意見交流などで発見したことなどを総まとめとして書かせていきます。それぞれの教科でどのような取り組みをしてきたか振り返ることで、反省点も出てきたりしますが、マイナス面があまり強調されないように、次につながる目標が見えるようなまとめをしていきます。それを学期ごとに積み重ねて

いくと自己の取り組みを比べながら成長を実感できます。

クラスのまとめは集会で

夏休みまでの残り一か月。学習だけでなくクラスのまとめも行います。クラス会議で学級目標について振り返り、どのようなクラスをこれから目指していくか考えたり、個々で立てた目標の振り返りをしたりなど、まとめの仕方はいろいろあると思いますが、自分は集会でクラスのまとめを行います。その時のクラスの実態によりませんが、クラス会議でしっかりと話し合い、**目的を明確**にしながら集会を計画・実行することが大切だと自分は考えています。ただやりたいからというだけのお楽しみ会だと、何のために行うのが明確になっていないので、活動だけになり学びがないからです。今年度は、クラス会議で係りの集会を行いたいという議題が出てきたので、「**係フェスティバル**」と題してそれぞれの係が実行委員長となり集会を行っていきますが、計画を進める前にそれぞれの係にやっても

らいたいリクエストをクラス会議で話し合いました。詳しく話し合いをせずに計画に係にまかせてもよいですが、集会に対する子どもたちの思いや考え、目指したいゴールをみんなで共有してスタートすることで友達とのつながりを感じながら行う意識へと変化します。意識が高まると自分たちが楽しくむものではなく、クラスの友達も一緒に楽しめる内容かじっくり考えるようになります。また、それぞれが実行委員となることで受け身とならず、どの子にとっても自分事としてなるので役割意識や責任感が生まれていきます。そして、どの子にとつての活躍の場となることで、「**自分もできる**」実感へとつながっていきます。

様々な取り組みを紹介させていただきましたが、とても時間をかけた大きなものというのではなく、日々の取り組みの一つです。どの子も伸ばしていくためには、**目的意識(ゴール)**を担任がしっかりと持ち、何をどのように継続していくか常に考えながら実践していくことが大事だと思います。

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

「授業づくりも学級づくりも

別のものではない」

【授業づくりを学級づくり

「若いころに学んだこと・得たこと」第

6回】

自分を見つめ直すきっかけとなった教育技術
の記事を紹介します。

執筆／教育ジャーナリスト・矢ノ浦勝之

■学力をつける過程で、学級をつくる

連載のタイトルに、「授業づくり・学級づくり」とありますが、学級づくりという視点で言えば、私は若手の頃には、学力づくり・授業づくりと学級経営・学級づくりはそれぞれ別のものと捉えていました。その中で、初任時に学力研との出会いもあり、最初は学力づくり・授業づくりに力を入れて取り組んでいったわけです。それが、3年目に赤坂真二先生との出会いを通して、「学級経営という考え方もあるんや」と新たな視点を得て、学級というものの見え方が変わってきたな

と感じています。

そこからまた多様な実践の経験を通して、現在は、授業づくりも学級づくりも別のものではないと思っています。学力をつける（資質・能力を育む）という過程で学び合う集団が育っていくことが、結局は学級づくりになっていくのだし、学級というのは子供たちと担任が、その集団としての学び合う文化をつくっていく空間だと思います。ですから、担任の先生が学級を経営するとか、誰かが経営するということではなく、子供も先生も一緒に学ぶ学力づくり（資質・能力の育成）の過程自体が、言い換えるなら、その学びの軸こそが学級なのだと考えています。

ですから、学級づくりということだけを取り出して、特別に語ることはあまりしていないのです。

■すてきだなと思う先生から学ぶ

最近、他の先生方の授業を見る機会が多い立場でもあるので、若い先生がこんなこと

に気を付けて取り組んでみたらどうか、と思うことを少しお話ししたいと思います。

1つめは自分のやりたいことを言語化していくということです。もし、私が学級開きをしていない4月前の時期に若い先生と話す機会があったら、「どんな学級になってほしいの？」「目の前の子供たちにどんな力をつけたいの？」「あなたはどんな先生になりたいの？」ということを聞いていきま

す。そしてそのために、「じゃあ、こんなことから始めてみない？」と、具体的な方法について声をかけていくと思います。そこにあられてくる「子供につけたい力」や「なりたい先生」は、その先生の価値観であり、教育観であり、教師観です。そこが明確でないまま、ただ「いい先生になりたい」と思っている、確かな成長は望めないような気がします。ですから、まず言語化してみることから始めてみてほしいと思います。

ただ、「言語化してみても、それをどうやって実現すればいいか分からない」ということもあるでしょう。そうしたら、あなたがすてきだなと思う身近な先生から学ぶようにしていけばよいと思います。すてきだと思っ先生は、まさにあなたの教師観を具現化した

姿でしょう。ですから、「憧れている先生だ
つたらどうするかな」と考えながら取り組ん
でみて、そこでうまくいったこと、いかなか
ったことを明確にして改善を図っていけば
よいのではないかと思います。

2 つめは、研究授業などでは大胆に自分
の授業にチャレンジしてみてもほしいとい
うことです。最近、よく聞かれることでもあ
りますが、みんな上手に授業をしているので
すが、誰でもできる無難な70点くらいの授
業を見ることが少なくなりました。授業と
は、一人一人の先生とその学級の子供たち
の間でできあがるものだと思います。です
から、どの学級でも間違えなくできるよ
うな授業をしていても、学べることはあ
まり多くないような気がします。それより
も、自分自身と目の前の子供たちの間で
しか成立しないような授業に、チャレン
ジしてみてください。そうしたら、100点
の授業になるかもしれないし、場合によ
つたら0点の授業になるかもしれません。
でも、そこから学べることはとても多
いはずだと思います。

3 つめは、集団をまとめる力があるか
どうか、自分自身を見つめ直すこと
です。個別最

適化ということが言われ、個人個人
にしっかりと目が行っている先生は多
くなっています。もちろん個人個人
にどんな力がついたのかを見極める
力は必須です。ただし、対話的に深
く学んでいくためには、学級とい
う学ぶ集団の在り方が重要です。そ
の状態を見極める力もまた必須
です。

もし、個にばかり目が行きがちであ
つたら、個に目を配りつつ、集団を
意識するということは簡単ではな
いかもしれません。しかし、「個に話
す時も全体に伝えよう」と思っ
て「話そう」「集団を通して個を
育てていこう」ということを意識し
ながら、自身の中にそういう目を
育んでいってほしいと思います。

■「どの子も伸ばす」という価値観を

芯に置く

最後に：私は1年目で学力研に出
会ったわけですが、その会の根底に
ある「どの子も伸ばす」という考
え方がずっと自分の柱としてあり
ます。

イメージで、学力研は百ます計算
の会だと思われ、実はそうした個
別の方法の問題ではなく、「どの子
も伸ばすためには」それぞれの先生
が、それぞれの学級、それぞれの
子供の実態に応じてどんなこ

とをすればよいかということ、追
究していく勉強会なのです。

つまり表層的な技術ではなく、「ど
の子も伸ばす」という公教育とし
て誰も否定できない価値観を芯
に置いて学んできたことが、私
にとつてとても大きいことだっ
たなと思います。加えて「追実
践」で、先生にとつての学校とい
う形で学んできたことも大きい
と思います。研究会と現場で、理
論と実践を行き来することが絶
えることなく続き、そこに自分
の先を行く人、同輩、先輩が
いて仲間として学んでくること
ができたこともとても大きいと思
います。

若い先生方も、そんなふう
に教師としての人生を通して学
び続けられる価値や、共に学
び続けられる仲間を探していく
ことができれば、子供たちの姿
ももっと輝くだろうし、先生
自身の教師人生ももっと楽し
いものになるのではないか。

<https://kyoiku.sho.jp/227117/>

学習参観授業の組み立て方

四年の理科で、学習参観をすることになった。(二時間の土曜参観なので、その一時間を専科がするのはよくあることだ。)

普段の授業は、前日やその日の朝に考えていることが多い。しかし、学習参観になると、そももいかない。

なぜなら、保護者は、貴重な時間を使って、我が子のがんばる姿を観に来ているのですから。

参観までの理科の授業計画を立てる

四年理科は、週三時間。土曜授業をするので、週四時間の理科となる。

次のような授業計画を考えた。

① 五日(月) 地面を流れる水のゆくえ

(第一時)

発問一「運動場に降った雨水は、時間がたつとどうなりますか。」

テスト返し

観察一

「水の流れがありそうな所を探そう」

② 8日(木) 地面を流れる水のゆくえ

(第二時)

発問二「水がしみこみやすいのは土のつ

ぶの大きい方か小さい方か。」

実験一「土のつぶの大きさと水のしみこ

み方」

③ 9日(金) 電気のはたらき(第0時)

「電気のはたらき」セットの部品に名前や

出席番号を書き込み、スイッチとモーターを作る。

④ 10日(土) 電気のはたらき(第一時)

発問一「電気を使ってできることは、何

ですか。」

実験一「乾電池につないでプロペラを回

す」↓気付いたことの発表

土曜参観の朝の教材研究

ふと、子どもたちが三年理科で「電気では明かりをつけよう」をやっていたことが、思い出された。「電気」自身が初めてなわけではないのである。

啓林館のそれぞれの単元の最初のページに書かれている言葉を抜粋すると、

【三年】電気の明かりは、わたしたちのくらしの、いろいろなところで使われています。

【四年】電気には、明かりをつけるほかに、モーターを回すなどのはたらきがあり、身の回りのいろいろなところで利用されています。

となる。三年は明かり限定で、四年はモーターを使って、電気のはたらきを深めていくわけである。

そうになると、導入で扱う「20の扉」の袋に入れるものは、豆電球や乾電池ではなく、電気で動く電動鉛筆削りや黒板消しクリーナーなどにすべき。

その後、三年の教科書を提示して、電気

について少し復習し、それから四年の教科書を開かせて、「電気のはたらき」というタイトルをノートに書かせ、上記の文を読ませる。そして、次のように授業を進めていくのである。

【板書】電気のはたらきでできること

「電気のはたらきでできることを見つけてみましょう。」

学習参観当日の授業

「20の扉」とは、私が「はい」か「いいえ」で答えられる20の質問を子どもたちがして、袋の中味を当てるというゲームだ。

「それは食べられますか。」「いいえ。」

「学校にありますか。」「はい。」

なかなか当たらないときはヒントを出す。

「電気で動くものです。」

ここまで言うと、袋の中の電動鉛筆削りがすぐ当てられる。

取り出した鉛筆削りに、鉛筆を指す。

「あれっ、削れない。」

「コード指してないから。」

プラグのコードを私に指したりして、笑いを取る。

三年の電気の復習の後、「電気のはたらきでできること」で、二人ほど挙手指名で発表させた後、ノートに書く時間を取る。机間巡視をして、ちゃんとナンバリングしているかを確認してから、

「十個以上書けている人は持ってきます。」と指示し、こちらで番号を指定して、板書させていった。

- ①エアコンが動いて風を出す。②水がでる。
- ③トイレがながれる。④けいほうをならす。
- ⑤ワイファイがでんぱを発する。⑥でんしレンジが使える。⑦せんたくができる。⑧パソコンが動く。⑨テレビが見れる。⑩タイマーがうごく。⑪ストーブがつく。⑫体じゅうけいではかれる。⑬囲碁の時計が動く。⑭スマホのじゅう電ができる。⑮エレベーターがうごく。⑯かんらん車が動く。⑰IHで料理ができる。⑱車が動く。⑲こたつがあたたまる。⑳せん風きが動く。㉑ゲームができる。㉒時計がうごく。㉓こはんがたける。

板書を全員読ませた後、いくつかの意見

をとりあげて、深める。

例えば、②の「水が出る」。水道の水は普通電気を使っていない。でも、マンションでは、電気で水を上まで持ち上げてから使っている。みたいな話をしました。また、⑯と⑱を取り上げ、「電気のはたらきで、もつと大きな物を動かせますか」を聞いた。

この後、プロペラ付きモーターを乾電池一個で回させて、気付きを書かせ、発表させて、授業を終えた。

【学力研Zoom例会

7月30日(日)午後2時〜3時】

毎月一回、Zoomによる例会を開いています。学力研会員なら参加無料です。

ミーティングID…6930706442
パスワード…653359

(今回は、丸小野先生が「高学年のボール運動の授業づくり」について話してくださいませ。また、日々の実践の交流もを行います。六月はプールの話題で盛り上がりませう。

ぜひご参加ください。

「先生のための学校」誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2023 7

熊本県豪雨災害地域の再建記念講演に招かれました。今学校が大変、教育が大変「地域再生は教育」という熱い思いを感じました。学力研の主張は学校だけでなく地域にこそ響くというのが私の主張です。学力研の輪を広げ、地域再生の一助と奮闘してきます。以下は話の概要です。

親子の絆を築く大切な千日間の学習

私は、就学前から低学年の三年間を、学習を通して望ましい親子関係を築くことも大切な千日間だと考えています。なぜならば、まず第一に、親が子どもの学習においてまともに教えることができる時期はこの間しかないということ。第二には、話し言葉から読み言葉、書き言葉へ進むときであり、「読み書き計算」という学力の基礎を築く時期であること。第三には、大人が寄り添わなければ、子どもはけっして一人

で学習に取り組めない時期だという点からです。そして、この千日間のしつけ、親子の関係、学習に対する姿勢や態度、内容が将来に大きく響くからです。

なぜタブレット学習はこの時期の子どもの発達と好ましい親子関係の構築を阻害するのか。なぜ、鉛筆を使う、物差しを使っ
てしっかり押させて線を引くという原始的な体験が必要なのか。なぜ従来の読み書き計算やノート学習が子どもの脳を鍛えるのに最適なのかを実践的に、また人類史や脳科学の点から明らかにし、親と教師が共同し、自信をもって子どもたちの学力づくりに取り組んで頂くお話をしたいと思えます。
ブラックの中に、隅を照らす教師であれ
不登校問題、荒れキレ問題、GIGAスクール構想によるタブレット学習問題は現代の小学校教育の三大問題と言えます。

不登校の問題は家庭の人間関係、現在や将来への不安の問題です。明るいクラスをつくり、やさしく支援し、担任としては「待つ課題」と言えます。

荒れキレの問題は学力問題です。これは担任が「自ら実践すべき課題」です。低学力児のプライドを尊重し、学校やクラスをあげての学力づくりが唯一絶対の道です。タブレット学習は子どもたちの発達を阻害し、教師の権能をも疎外します。初等普通教育はヒトを人とし人間として成長させていく最も初歩のもっとも大切な時期の教育なのです。「鉛筆を使い、線を引き、読み書き計算など学力の基礎つくる・・・そんな原始的な、従来の教育方法が最もよく子どもたちの脳を鍛える」これが先端脳科学者たちの指摘です。

しかし、この問題は教師だけで闘える問題ではありません。保護者や地域の支持、支援が必要です。『小学校の教育は手や耳や目や脳、そして体全身を使った全面発達の教育であるべきだ。』『我が子をタブレットを持ったサルではなく全面発達した人間として育ててほしい』という保護者や地域

からの思いが教育委員会を動かしたときようやく実現できる課題、「保護者、地域と共に戦うべき課題」なのです。

そのためにはまず、学校、担任は学力づくりで保護や地域から信頼を得なければなりません。

子どもと保護者の信頼を得て

劇的にクラスを変ええる技

信頼のないところに教育はない。子どもの信頼、保護者の信頼は100倍の力、100倍の教育的効果をもたらす。「人がよい、子どもにやさしい」それだけで信頼を得てはならない。小学校教師はいつの世も、初等普通教育の専門家としての輝きを求められるのです。

では、専門家とはどのような者か。それは一言でいえば「確約し、実践し、確かな成果をもたらすこと」ができる人のことだ。「この方法で、これだけの努力をすれば、百点が取れる」こう確約し、九割の子どもに百点をとらせることのできる教師こそが専門家なのだ。

小学校教育の全ての分野においてこう確約することは不可能だ。しかし、私たちの

研究会ではこのような実践を長年にわたって研究し多くの方法を蓄積し、それをオワシスのように教育課程に散りばめることによつて、子どもの信頼を得、保護者の信頼を得てキラキラと輝くクラスづくりをしてきたのです。

子どもと親の願いを実現する家庭教育

子どもの願いとはなんでしょう。はつきり言うとう勉強ができて、親にほめられること」です。100パーセントまちがいありません。親の願いは「子どもが自主的に勉強に取り組んでくれ、成果をあげること」です。子どもが自主的に勉強に取り組み、成果をあげる。親はそれを見、そこはかかない喜びを感じ、子どもをほめる。子どもは喜び、再び勉強に取り組む。

このような家庭学習の幸せサイクルを実現する最も大切な心、それは「初歩の学力づくりで親子の絆を育もう」という当たり前の気持ちです。しかしこの決意は、早期教育、通信教育、塾、AIによる個別最適化、GIGAスクール構想、タブレット学習と、教育産業のすさまじい情報操作の前では風前の灯、親は我が子を愛するがゆえ

にお金を出して、子どもたちの教育を教育産業に委託してしまうのです。その結果、親と子が最も親しく絆を結べる機会を奪われ、さほど学力はつかず、ガミガミ、ガサガサの親子関係になってしまうのです。

では、子どもの学力づくりでよい成果を上げ、しかも親子の絆を築くためにはどうすればいいのでしょうか。勉強するのは子どもです。親が代わりをする訳にはいきません。親のすることは「勉強の仕方」を教え、やること。「勉強の仕方を教え、その方法で成果が上がること」で親子の絆を培っていくことです。

私は小学校教師を35年、その傍ら、子どもを守る会やお母さんが交代で塾長を務める家庭塾連絡会などで家庭学習の在り方についてお母さん方と研究してきました。退職後は現役の先生方の学校である「先生のための学校」の校長をしています。それゆえ、「勉強の仕方」を教えるのが得意なのです。7月2日にお招き頂いた八代で「地域を挙げての学力づくり」が実現できるように頑張りたいと思っています。

授業・自治公開ゼミナール

丸小野 聡暢

授業・自治ゼミナールとは

授業・自治ゼミナールとは、学力研の希望者の常任で構成された授業・自治研究サークルです。今年度は14名、隔週の土曜日、Zoomで20時～21時30分で活動を行っています。メンバーが日々の実践をレポートにまとめ、報告者を変えながら、毎回1時間30分程度の議論を行っています。レポート発表後は、議論したことを受け、実践をし直したりしながら、再度レポートを書き直しています。報告内容は、日々の授業実践ですが、授業の一場面や一時間ではなく、単元構成、教材解釈、授業実践、授業記録、指導要領での位置づけ、それについての解釈など、校内研究・公開授業を想定してのレベルで行っています。教材解釈や授業構成力は勿論のこと、年間を通して子どもたちの学習規律や学習能力をどのように高めていくかという視点も含めて議論を

行っています。メンバーには、先生のための学校の校長先生の久保先生や和歌山大学の深澤先生もいらつしやり、最後に講評やアドバイスをいただきながら深い学びにつながっています。

授業・自治公開ゼミナール

全6回の公開ゼミナールが終わりました。どのゼミも今後の授業づくりや学級づくりを生かせる汎用性のある内容となりました。それは、参加者がただ聞くだけでなく、講師や他のゼミナール生とともに議論をしていくという主体的な態度が、ゼミナールを活性化させていたからです。参加者がただ聞くだけであれば、一般的な教材解釈・学級づくりとして終わり、次に同じ教材をすするときに覚えていたらやってみようと思う程度かも知れません。しかし、一緒に学ぶという姿勢が、自分のクラスの子どもたちの実態を反映した質問や意見になっていま

した。どの講師の報告も子どもたちの姿から授業づくりや学級づくりについて語られていた点も議論が深まった要因です。

また、参加者の先生方が、追実践してくるにあたって、普段の講座では聞けないような細かなポイントや質問者のクラスに合わせたアドバイスなどを聞くことができました。様々な角度から学びが深まりました。

報告

- 第1回 「高学年の物語文」 吉田先生
 - 第2回 「低学年の物語文」 堀井先生
 - 第3回 「説明文」 鈴木先生
 - 第4回 「高学年の算数授業」 荒井先生
 - 第5回 「低学年の学級づくり」 福島先生
 - 第6回 「高学年の学級づくり」 岡本先生
- 延べ参加人数 102人

参加者の感想【一部抜粋】

- ・「わかる」と「できる」を意識された授業の組み立てが明確だと思いました。
- ・子ども達が自分達でクラスを善くしているようにする手立てが大事だと分かりました。
- ・学級づくりを「形」と「心」の融合というキーワードを大切に、もう一度みなおししていきたいと思えます。

同長だより 7月

◇学力研最新情報

●メルマガ会員のみなさん

ようこそー！

今月号の学力研の広場はいかがでしたか？もしかししたら、初めてお読みになった方もおられるのではないかと思います。毎月読んでいただけると、学力研というサークルの考え方や、大事にしていることなどがわかっていただけると思います。

そして、これまで会員としてパスワードをお知らせしていたみなさま。今月号よりパスワードなし、pdfファイルを誰でもダウンロードして読むことができるシステムに変更しました。ワンクリックで、開けるようになっています。

●年会費は不要ですが、

メルマガに登録を

学力研は、これまで年会費をお支払いいただき会員として登録された方のみ、この「学力研の広場」用のパスワードをお届けしてきました。コロナ禍で、なかなか

学習会も開催できず、広場の発送作業をしようにも、集まることも

できなかったために、オンライン学習会を中心にした活動に移行しました。

学校現場でも、提案文書や報告等が電子化され、私たちもそれに慣れてきました。学力研も、この機会に有料会員のシステムを廃止して、メルマガ登録していただいた方を会員とするシステムに移行します。タブレットやスマホ等で



このQRコードを読み取っていただく、メルマガ登録のページが開きます。この「学力研の広場」の内容も、メルマガでお知らせすることが多いです。

メルマガ会員の場合は、入会も退会も自由にできます。これまでの会員の方の登録をお待ちしております。（まぐまぐ「学力研」）

◇事務局だより 岡本 美穂

●学力研・家庭塾連絡会

第64回 全国フォーラム

8月6日(日) 10:00～15:30

テーマ

学力づくりで子どもをつなぐ
〜できた！わかった！つながった！〜

ここ数年はオンラインで開催していましたが、今年は会場参加もオンライン参加もできるハイブリッド形式での開催です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

午前の部

全体講演 10:00～11:30
岡本美穂

「自治の萌芽を育てる学級づくり 国語の授業を土台にして」

久保齋

「これからの教師のあり方」

深澤英雄

「全体会まとめ」

※中学・高校・家庭教育合同分科会
会は午前中より開催

午後の部

低・中・高学年別講座

13:30 ～ 15:30

低学年講座

1年生 李詩愛（大阪）

『みんなで伸び合う授業づくり』

2年生 吉田雅直（大阪）

『「できる」「わかる」「つながる」
できらきら輝く子どもたちに』

中学年講座

3年生 鈴木基久（静岡）

『学び方を積み上げる3年説明文の学習』

4年生 根無信行（大阪）

『わり算筆算をみんなでのりこえよう』

高学年講座

5年生 堀井克也（愛知）

『単位量あたりの大きさ』『割合』『速さ』

『5年生算数の難単元攻略法』

6年生 丸小野聡暢（大分）

『社会と理科で学力づくり〜思考力を高める社会科、学習先行型の理科〜』

『中学・高校・家庭教育合同分科会』

阿久澤恵子（群馬）

『コロナ禍で伸びた学力〜ピンチを生かした学力づくり〜』

内田直（京都）

『多様な学びの場から見えてくること』

『夜間中学からの報告をもとに』

https://www.kokuchipro.com/ev

ent/87781a40169198527c69da47

2dc48e0/

2dc48e0/

●メルマガのご登録

よろしくお願致します。

まぐまぐ「学力研」

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2023年 7月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

7/

9 (日)	神奈川学力研	10時～12時	県民サポートセンター704号室 (横浜駅西口)	湯浅 090-1104-4667
2 1 (金)	いろえんぴつ (加印)	18時半～	稲美町ふれあい交流館	岸本 090-9117-6330
2 1 (金)	春日井学力研	18時半～	レディヤン春日井(JR勝川駅)	山口 080-6904-1697
2 1 (金)	伊丹学力研	18時半～	※阪急武庫之荘駅近く	前田 090-9715-3830
2 2 (土)	大阪教育サークルはやし	午後	エルおおさか	荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等にご連絡下さい。

- みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830
- 東大阪「ふじりんご」 19時～ 東大阪市文化創造館 岡本 mipo2468@yahoo.co.jp

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 学力研・家庭塾連絡会 全国フォーラム 8/6 (土)

全体講演 ①岡本美穂 ②久保齋 分科会 午前10時～16時

自治の萌芽を育てる学級づくり
～国語の授業を土台にして～
これからの教師のあり方

会場 エル大阪 オンライン併用

(詳細はメルマガ、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

～学力づくりで子どもをつなぐ～ 「できた、わかった、つながった」

学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会
全国家庭塾連絡会

第64回

全国フォーラム

午前 10:00～ 11:30	全体講演 講師 ①岡本美穂 ②久保 齋 ③深澤英雄	自治の萌芽を育てる学級づくり ～国語の授業を土台にして～ これからの教師のあり方 全体会まとめ
午後 13:30～ 15:30	低・中・高学年別講座 中学・高校・家庭教育合同分科会(全日)	参加は会場のみ

1年生

李 詩愛(大阪)
みんなで伸び合う
授業づくり

3年生

鈴木 基久(静岡)
学び方を積み上げる
3年説明文の学習

5年生

堀井 克也(愛知)
「単体量あたりの大きさ」
「割合」「速さ」
～5年生算数の
難単元攻略法～

2年生

吉田 雅直(大阪)
「できる」「わかる」
「つながる」できらきら
輝く子どもたちに

4年生

根無 信行(大阪)
わり算筆算を
みんなでのりこえよう

6年生

丸小野 聡暢(大分)
社会と理科で学力づくり
～思考力を高める
社会科、学習先行型
の理科～

中学・高校・家庭教育分科会(会場参加のみ)

中学 阿久澤恵子(群馬)
コロナ禍で伸びた学力 ～ピンチを生かした学力づくり～
家庭教育 内田 直(京都)
多様な学びの場から見えてくること ～夜間中学からの報告をもとに～

ハイブリッドにて
開催！！

定員

オンライン会場
100名 70名

日時

2023年8月6日(日) 午前10時～15時30分

会場

エルおおさか 大阪市中央区北浜東3-14

主催

学力研&家庭塾連絡会

参加費
2000円

オンライン申込



会場参加申込



参加をご希望の方は下記よりお申込みください。

こくちーず 「学力研 全国フォーラム」で検索

学力研 <http://gakuryoku.info> Mail:info21@gakuryoku.info fax:079-425-8781